新時代の成長戦略

米国最大の財務団体AEFが開催する年次大会には、毎年七〇〇〇名を超える財務プロフェッショナルが集うというのに、かたや日本には財務専門誌もなければ、財務の資格もなく、ましてや財務のフォーラムもない。これが四年前の現実だった。こうした財務後進国からいつかは抜け出そうとの思いではじめたCFOフォーラム・ジャパンであるが、第四回目の開催となる今回は、これまで半日のフォーラムだったのを丸一日に拡張したほか、収容規模も二倍と、やや勢い込んで臨んだ。主催者側の心配をよそに、申込者数は定員の四〇〇名を超えて一週間前には受付中止という好反響を呼んだ。開催日当日の六本木アカデミーヒルズのメイン会場は、早朝から熱心な参加者で溢れかえった。

今回のテーマは「新時代の成長戦略」。「そろそろ、バランスシート調整の話をするのはやめにしよう」という福間年勝氏（日本銀行政策委員会審議委員）、元三井物産CFOからのアドバイスもあり、膨れ上がった不稼動資産をどう処理していくか、といったバブルの事後処理の話ではなく、今後のさらなる成長へ向けて日本企業は何を目指していくべきなのか、次なる戦略は何なのかといった攻めの話を考えようという思いのもとでフォーラムをスタートさせた。

多面的な考察がフォーラムを盛り上げる

オープニングでは、日本公認会計士協会会長の藤沼亜起氏が、企業会計の信頼性回復に向けて」と題し、ガバナンス強化の要請が世界的に強まっているなか、CEO、CFOといった経営者が企業のガバナンスについての責任を持つこと、ついで外部監査人との交流・対話を深めていくことが信頼性回復の重要なポイントではないかとの問題点をなげかけた。続いて「ネクスト・ソサエティのCFO」というテーマで、AIGカンパニー日本・韓国地域副会長の近藤章氏の講演が行われた。住友銀行（現三井住友銀行）でデリバティブ・ハウスを構築した後、ソニーのCIOとして会計情報と情報システムとの連動を手がけてきたという氏の多彩な経験に裏付けられた講演は、日本企業の遅れをとったIT投資の本質を浮かび上がらせた。

基調講演には、前回のフォーラムで経理・財務のトヨタウエイを披露して参加者の絶大な評価を受けたトヨタ自動車副社長の光木隆司氏が再度登場した。今回は「トヨタ二一世紀の成長戦略」と題し、「成長」と、効率」という一見相反する二つのテーマをいかにして両方追求していくのか、グローバル企業のトップランナーであるトヨタが、これから何をしようとしているのかにポイントが絞られた力強い講演が終わったとき、会場は立錐の余地もないほど埋めつくされていた。

特別講演では、弊会理事長の行天豊雄による

「企業経営の行方」、日本マクドナルド・ホールディングス副会長兼社長の原田永幸氏による「企業改革とビジネスの拡大」の二つの講演が披露された。行天氏は、冷戦構造終結を受けたグローバリゼーションの進展と、二一世紀の経営環境を分析した後、これからの経営者が取り組まねばならない新たなリスクとは何か、斬新な視点から解説を行った。IT業界を三三年経験し、アップルコンピュータ社長の経験を有する原田氏は、スピード、ターゲットの絞込み、ブランディングといったマーケティング戦略を軸にしながらも、「分析よりも直感だと熱く語りかけた。財務の専門性に埋没しがちなCFOフォーラムの最後は現役経営者の迫力に引き締められた。

今回はじめて、三つの会場に分かれた専門セッションを合計で九つ準備した。参加者それぞれが自分の興味のあるテーマを選んで参加したが、内部統制、予算管理、財務システム、国際会計基準など、第一線で活躍する講師たちの専門セッションだったこともあり、どの会場でも一〇〇名を超える参加者が熱心にメモを取りながら聴講していた。

人が集まるところに情報が集まる

「これに参加すれば、少なくとも現在の財務のトレンドは把握できる」。そういうフォーラムへ、CFOフォーラム自身も成長していかなければならないのだろう。「経営者は、経営者仲間とばかり付きあってはだめで、自分と意見や価値観の異なるいろんな人と付き合っていかなければならない」と資生堂名誉会長の福原義春氏に教わったが、財務部門はこれまで同業他社、他社の財務との情報交換すらできていなかったようである。会社の枠を越え、機会を見つけては財務のカンファレンスに参加する。ここから得られるものは計り知れないものになるはずだ。一日を締めくくるレセプション会場での懇親会で、尽きることなく語り合う参加者の姿を見て、こうした思いを深めることができた。パノラマのように広がる六本木の夜景に囲まれて、クリスマスソングやオールディーズを奏でる三重奏に包まれながら、参加者も講師もワインを片手に語らいながら一日の疲れを癒していた。

（日本CFO協会　谷口　宏）

第4回 CFOフォーラム・ジャパン 2004

新時代の成長戦略。

日本発のグローバルスタンダード構築に向けて。

日時：2004年12月16日(木) 9:30〜19:30
会場：六本木ヒルズ 森タワー49F（東京・六本木）

特別協賛　accenture ハイパフォーマンスの実現へ　あずさ監査法人　SAP　トーマツ　Hyperion　PeopleSoft.

プラチナ協賛　三菱商事　SUNGARD　protiviti

ゴールド協賛　新日本監査法人 ERNST & YOUNG　中央青山監査法人 PricewaterhouseCoopers

レセプション協賛　MMC

特別協力　academyhills

（協賛企業順報告50音順）

※一部を除き、セッションの概要は協会公式サイト（www.cfo.jp）で閲覧可能です。